

営農情報（水稻）

トビイロウンカの防除について

令和元年9月吉日
福岡大城農業協同組合
南筑後普及指導センター

○トビイロウンカ（秋ウンカ）の発生状況

本年は、トビイロウンカ（秋ウンカ）の発生が過去10年間で最も多く、9月9日には警報が発表されています。

梅雨時期にかけて断続的な飛来が確認されており、ほ場内における虫齢にもバラつきが見られる状況です。そのため、防除時期がズレるとトビイロウンカがほ場に残って増殖し、坪枯れを引き起こす可能性が非常に高くなっています（他地区では、坪枯れが散見されています）。

そこで、適宜ほ場の確認を行い、トビイロウンカの発生が多いほ場では発生抑制のため、以下の内容に従って補正防除を実施します。

<補正防除について>

○ 補正防除実施の目安

1株当中老齢幼虫及び成虫が5頭以上

速やかに防除を実施する

○ 防除基準

剤形	薬剤名	10a 当り散布量	使用回数	使用時期
粉剤	スタークル粉剤 DL	3kg	3回以内	収穫7日前まで
液剤	スタークル顆粒水溶剤	3,000倍/100L		
	スタークル液剤 10	1,000倍/100L		
粒剤	スタークル粒剤	3kg		
豆つぶ剤	スタークル豆つぶ	250 ~ 500g		

※ウンカ類は株元に群生するため、粉剤・液剤はできるだけ株元にかかるように散布します。

※薬剤の防除効果を高めるため、湛水状態で散布します。

※地域やほ場で発生状況が異なるため、本田での発生状況を確認して散布します。

※特別栽培米については、補正防除として、すでにアプロードモンカットスタークルを散布していないことが条件となります。



水稻株元の成幼虫



短翅型成虫